

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年4月30日

【四半期会計期間】 第16期第3四半期(自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

【会社名】 株式会社アイスタイル

【英訳名】 istyle Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉松 徹郎

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号

【電話番号】 03(5575)1260

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 菅原 敬

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号

【電話番号】 03(5575)1260

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 菅原 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結累計期間	第16期 第3四半期連結累計期間	第15期
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日	自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日	自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日
売上高 (千円)	5,137,037	6,858,558	7,141,247
経常利益 (千円)	215,030	534,283	460,186
四半期(当期)純利益 (千円)	46,691	251,561	14,149
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	295,449	385,884	249,801
純資産額 (千円)	4,289,728	4,418,080	4,246,406
総資産額 (千円)	5,882,255	6,728,511	5,758,651
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	3.19	17.47	0.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	3.12	17.17	0.94
自己資本比率 (%)	72.3	65.0	73.1

回次	第15期 第3四半期 連結会計期間	第16期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.65	4.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(マーケティング事業)

第1四半期連結会計期間において、ビューティー・トレンド・ジャパン株式会社の全株式を取得したため、同社を連結の範囲に含めております。

(小売事業)

当第3四半期連結会計期間において、海外における越境EC事業及び化粧品卸事業に参入したことにより重要性が増した株式会社アイスタイルトレーディング及びistyle Global (Hong Kong) Co., Limitedを連結の範囲に含めております。

(その他)

第2四半期連結会計期間において、投資育成事業として株式会社アイスタイルキャピタルを新規に設立したため、同社を連結の範囲に含めております。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日～平成27年3月31日）の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	6,858,558千円（前年同期比 33.5%増）
営業利益	536,384千円（前年同期比 137.0%増）
経常利益	534,283千円（前年同期比 148.5%増）
税金等調整前四半期純利益	481,378千円（前年同期比 139.6%増）
四半期純利益	251,561千円（前年同期比 438.8%増）

なお、四半期純利益につきましては、前期において海外子会社等で損失を計上していたことから税負担割合が大きくなっておりましたが、当該事業が順調に進捗したことにより損失額が減少し、税負担割合が平常化したため大幅に改善いたしております。

各セグメントの業績につきましては、次のとおりです。なお、第1四半期連結会計期間より報告区分のセグメントを変更しており、以下の前年同四半期比較については前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

マーケティング事業

マーケティング事業には、@cosme、海外事業等が属しております。

@cosmeの広告売上が堅調な推移となったほか、その他サービスの売上也順調に成長いたしました。一方で、ユーザーファースト視点でのサービス開発を課題と認識しており、今期はスマートフォンサイトと、それに伴うサービス開発への投資を強化しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日～平成27年3月31日）の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	3,379,906千円（前年同期比 33.5%増）
セグメント利益	275,427千円（前年同期比 234.5%増）

小売事業

小売事業には、化粧品ECサイトのcosme.com、化粧品専門店 @cosme store等が属しております。

ECサイトでは、品揃えの拡充やキャンペーンが功を奏し、売上が大きく伸びいたしました。また、当第3四半期連結累計期間末において東京5店舗、大阪1店舗の計6店舗を運営しております@cosme storeも、2014年11月に大阪にオープンした店舗の売上が順調に伸びていることに加え、既存店も売上を伸ばしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日～平成27年3月31日）の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	3,024,549千円（前年同期比 39.4%増）
セグメント利益	270,055千円（前年同期比 61.1%増）

美容事業支援事業

美容事業支援事業には、i spot等が属しております。

前連結会計年度に実施したサービスメニューの変更により収益が低下しましたが、その後の事業立て直しにより徐々に改善し、黒字化を達成いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日～平成27年3月31日）の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	454,102千円（前年同期比 4.1%増）
セグメント利益	3,338千円（前年同期セグメント損失 51,440千円）

(2) 財政状態の分析

資産の部

当第3四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ969,859千円増加し、6,728,511千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,193,166千円増加し、4,643,993千円となりました。これは主に、現金及び預金が731,925千円増加したこと、また受取手形及び売掛金が83,061千円増加したこと、営業投資有価証券が279,553千円増加したこと等によるものであります。

営業投資有価証券の増加については、第2四半期連結会計期間より、投資育成事業を開始したことに伴い投資育成目的の有価証券を営業投資有価証券に計上したことによります。詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ223,306千円減少し、2,084,517千円となりました。これは主に、ソフトウェアが136,252千円減少したこと、投資有価証券が171,514千円減少したこと等によるものであります。

負債の部

当第3四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ798,185千円増加し、2,310,430千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ444,046千円増加し、1,594,776千円となりました。これは主に、買掛金が244,987千円増加したこと、1年内返済予定の長期借入金が108,832千円増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ354,138千円増加し、715,654千円となりました。これは主に、長期借入金が346,055千円増加したこと等によるものであります。

純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ171,674千円増加し、4,418,080千円となりました。これは主に、利益剰余金が238,343千円増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	41,000,000
計	41,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年4月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,975,800	14,975,800	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社の標準となる株式であります。また、単元株式数は100株となっております。
計	14,975,800	14,975,800		

(注) 提出日現在発行数には、平成27年4月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年1月1日 ~平成27年3月31日		14,975,800		1,586,274		1,357,614

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 683,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,291,400	142,914	
単元未満株式	普通株式 800		
発行済株式総数	14,975,800		
総株主の議決権		142,914	

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アイスタイル	東京都港区赤坂一丁目12 番32号	683,600		683,600	4.56
計		683,600		683,600	4.56

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年7月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,950,540	2,682,466
受取手形及び売掛金	1,153,737	1,236,798
商品	234,125	369,960
営業投資有価証券	-	279,553
その他	120,548	112,510
貸倒引当金	8,124	7,609
投資損失引当金	-	29,686
流動資産合計	3,450,827	4,643,993
固定資産		
有形固定資産	337,131	317,295
無形固定資産		
のれん	49,368	67,426
ソフトウェア	631,390	495,137
その他	60,947	125,702
無形固定資産合計	741,705	688,266
投資その他の資産		
投資有価証券	939,795	768,281
その他	289,191	310,674
投資その他の資産合計	1,228,986	1,078,955
固定資産合計	2,307,824	2,084,517
資産合計	5,758,651	6,728,511

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	266,040	511,028
1年内返済予定の長期借入金	211,984	320,816
未払法人税等	136,559	83,154
賞与引当金	47,300	50,711
その他	488,846	629,065
流動負債合計	1,150,730	1,594,776
固定負債		
長期借入金	329,332	675,387
その他	32,183	40,267
固定負債合計	361,515	715,654
負債合計	1,512,245	2,310,430
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,578,002	1,586,274
資本剰余金	1,514,942	1,523,198
利益剰余金	897,913	1,136,257
自己株式	37,660	283,565
株主資本合計	3,953,197	3,962,164
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	216,735	290,646
為替換算調整勘定	42,052	122,834
その他の包括利益累計額合計	258,787	413,480
新株予約権	10,312	17,350
少数株主持分	24,108	25,085
純資産合計	4,246,406	4,418,080
負債純資産合計	5,758,651	6,728,511

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	5,137,037	6,858,558
売上原価	1,862,203	2,801,830
売上総利益	3,274,834	4,056,727
販売費及び一般管理費	3,048,520	3,520,342
営業利益	226,313	536,384
営業外収益		
受取利息	680	889
受取手数料	2,353	
その他	3,019	5,604
営業外収益合計	6,053	6,493
営業外費用		
支払利息	2,999	3,228
支払手数料	2,500	
投資有価証券評価損		1,665
自己株式取得費用		1,813
株式交付費	407	
為替差損	6,919	882
その他	4,511	1,004
営業外費用合計	17,337	8,594
経常利益	215,030	534,283
特別損失		
固定資産除却損	3,025	
減損損失	9,210	46,587
投資有価証券評価損		5,265
その他	1,892	1,053
特別損失合計	14,128	52,905
税金等調整前四半期純利益	200,902	481,378
法人税等合計	157,542	228,840
少数株主損益調整前四半期純利益	43,359	252,537
少数株主利益又は少数株主損失()	3,332	976
四半期純利益	46,691	251,561

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	43,359	252,537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	219,916	73,911
為替換算調整勘定	32,173	59,436
その他の包括利益合計	252,090	133,347
四半期包括利益	295,449	385,884
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298,781	384,908
少数株主に係る四半期包括利益	3,332	976

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)
<p>(連結の範囲の重要な変更)</p> <p>第1四半期連結会計期間において、ビューティー・トレンド・ジャパン株式会社の全株式を取得したため、同社を連結の範囲に含めております。</p> <p>第2四半期連結会計期間において、新たに設立した株式会社アイスタイルキャピタルを連結の範囲に含めております。</p> <p>当第3四半期連結会計期間において、海外における越境EC事業及び化粧品卸事業に参入したことにより重要性が増した株式会社アイスタイルトレーディング及びistyle Global(Hong Kong)Co.,Limitedを連結の範囲に含めております。</p> <p>この結果、平成27年3月31日現在では、当社グループは、当社、子会社10社により構成されております。</p>

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)
<p>(営業投資有価証券)</p> <p>第2四半期連結会計期間において、主に「ビューティ」に関連する企業を対象とした、投資育成事業に取り組んで行くことを決定いたしました。また、責任体制の一層の明確化を図るとともに機動的な運営を行うため、投資育成事業を行う子会社として株式会社アイスタイルキャピタルを新規に設立いたしました。これに伴い、第2四半期連結会計期間より、四半期連結貸借対照表上、投資育成目的の有価証券を流動資産の「営業投資有価証券」に計上しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の連結貸借対照表において、投資その他の資産の「投資有価証券」に含めて表示していた投資育成目的の有価証券438,394千円については、流動資産の「営業投資有価証券」に振替えております。</p> <p>(法人税率の変更等による影響)</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日付で公布されたことに伴い、当第3四半期連結累計期間の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年7月1日から平成28年6月30日までのものは33.1%、平成28年7月1日以後のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。</p> <p>その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が2,225千円増加し、当第3四半期連結累計期間に計上された法人税等調整額が12,108千円、その他有価証券評価差額金が14,333千円それぞれ増加しております。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)
減価償却費	270,367千円	306,866千円
のれんの償却額	12,231千円	16,890千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成26年8月26日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が245,904千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が283,565千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 (千円)
	マーケティ ング事業 (千円)	小売事業 (千円)	美容事業 支援事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客への売上高	2,530,883	2,169,754	436,399	5,137,037		5,137,037		5,137,037
セグメント間の 内部売上高又は振替高	53		1,887	1,941		1,941	1,941	
計	2,530,936	2,169,754	438,287	5,138,978		5,138,978	1,941	5,137,037
セグメント利益又は 損失()	82,327	167,581	51,440	198,469		198,469	27,844	226,313

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資育成事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 27,844千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「小売事業」セグメントにおいて、銀座店の閉鎖の意思決定に伴い固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該セグメントにおける減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において9,210千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注)1 (千円)	合計 (千円)	調整額 (注)2 (千円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 (千円)
	マーケティ ング事業 (千円)	小売事業 (千円)	美容事業 支援事業 (千円)	計 (千円)				
売上高								
外部顧客への売上高	3,379,906	3,024,549	454,102	6,858,558		6,858,558		6,858,558
セグメント間の 内部売上高又は振替高	10,936		1,323	12,259		12,259	12,259	
計	3,390,842	3,024,549	455,425	6,870,817		6,870,817	12,259	6,858,558
セグメント利益又は 損失()	275,427	270,055	3,338	548,820	34,180	514,639	21,744	536,384

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資育成事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 21,744千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「美容事業支援事業」セグメントにおいて、ちぢまる関連事業の収益性の低下に伴い、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該セグメントにおける減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において46,587千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、経営管理区分を見直し、経営情報をより適切に表示するために、報告セグメントを従来の「メディア事業」、「EC事業」、「店舗事業」及び「その他事業」の4区分から、「マーケティング事業」、「小売事業」及び「美容事業支援事業」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	3.19円	17.47円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	46,691	251,561
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	46,691	251,561
普通株式の期中平均株式数(株)	14,643,567	14,398,316
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	3.12円	17.17円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	340,025	252,436
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 4月30日

株式会社アイスタイル
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 恭仁子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイスタイルの平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイスタイル及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。